

長崎県のこども場所等の充実に向けて 支援施策の提案に関する最終報告書

令和7年3月26日

(運営受託事業者) 公益財団法人ながさき地域政策研究所

1. ミッション（現状・背景）

①なぜ、こども場所が必要か？

国の考え方

令和5年12月、「こどもの居場所づくりに関する指針」が閣議決定

【理念】全てのこどもが、安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら、様々な学びや、社会で生き抜く力を得るための糧となる多様な体験活動や外遊びの機会に接することができ、自己肯定感や自己有用感を高め、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で成長し、こどもが本来持っている主体性や創造力を十分に発揮して社会で活躍していけるよう、「こどもまんなか」の居場所づくりを実現する。

長崎県の現状は？

こどもの声（親の声）

- 放課後に過ごすことができる居場所がまだ十分でない。
 - ・身近にあると答えたこどもは48%に留まる
- 好きなことをして自由に過ごしたい、いつでも行きたい意向が多い。また小学生は遊び、中・高生は一人でのんびり過ごしたい意向が続く。
 - ・好きなこととして自由に過ごす（小～高：59.9%）
 - ・いつでも行きたい時に行ける（小～高：57.4%）
 - ・身体を動かすこと（小：35.1%）
 - ・一人でのんびり過ごす（中高：40.0%）
- 居場所では遊びや体験をやりたい。中高生は勉強のニーズもあるなど多様な居場所が求められている。
 - ・遊び・ゲーム、運動、体験活動（小～高：87.6%）
 - ・読書や料理・食事（小：33.0%）
 - ・勉強（中高：35.7%）
- 居場所自体があまり知られていない
 - ・場所があることを知らないため、利用したことがない（56.5%）

こども場所の数 （定量データ）

○こども場所の数自体が十分でない

- ・こども食堂85か所
- ・フリースクール23か所
- ・プレイパーク2か所

計110か所※これ以外は未把握

こども場所の充実に 取り組むNPO等の声

～運営の課題が山積
単独での解決が難しい現状～

●開設当初の課題

- ①運営に関するノウハウ不足
- ②中核となるスタッフの確保
- ③資金確保

●継続時の課題

- ①中核となるスタッフの確保
- ②資金確保
- ③活動の周知・広報

県内企業の声

～こども場所の活動に
関心はあるが参加方法
がわからないとの意見
が多い～

●こども場所の活動に関心 がある51%

→このうち34%が参加方法が「わからない」

●関心の内容

- ①食料提供
- ②イベント実施
- ③寄付（金銭・物品）

長崎県
として
今必要な
こと

- 多様な居場所をふやすこと
- こども場所とこどもをつなぐこと
- こども場所の継続を支援すること
- こども場所同士や場所と市民・企業をつなぐこと

②現状・背景

長崎県のこどもたち と地域の声から見え る現状

“身近に居場所がある”48%。聞こえてくるこどもたちの声

「学校が終わった後、どこに行こう?」「自由に遊べる場所があったらな。」
こどもたちのこんな声が浮かび上がります。

長崎県内のこどもたちが過ごせる居場所は、こども食堂85か所、フリースクール23か所、プレイパーク2か所の合計110か所（その他の施設は未把握）と、数自体がまだ十分とは言えません。

（2024年11月現在長崎県調べ）

実際、「身近に居場所がある」と答えたこどもは48%に留まっています。

それでも、こどもたちは「好きなことをして自由に過ごす（59.9%）」や「いつでも行きたい時に
行ける（57.4%）」そんな居場所を求めています。

居場所を支える大人たちの現実

こども場所の充実に取り組むNPOなどからは、運営の困難さが語られています。
開設時には、運営ノウハウの不足や中核スタッフの確保、資金の確保が課題となり、継続時にもこ
これらの課題が引き続き大きな負担となっています。さらに、活動の周知や広報にも力が必要です。

一方で、県内企業の51%が「こども場所の活動に関心がある」と回答しているものの、そのうちの
34%が「どのように関われば良いのかわからない」と答えています。地域全体でこどもを支える
仕組みが十分整備されていない現状が浮き彫りになっています。

こどもの育ちに 関する課題と社会的 背景

こどもを取巻く環境変化により、心と体の両面の育ちの力が低下

近年の少子化や核家族化、公園の規制により、外遊びの機会が減少し、こども同士が集団で遊ぶ体
験が失われ、体力の低下も進んでいます。また、情報化の進展に伴い、携帯ゲームやネットでのオ
ンラインゲーム・動画視聴といった室内遊びが増え、体験が偏りがちです。さらに、人間関係の希
薄化により、地域の大人がこどもの育ちに無関心であったり、関わりたくても方法が分からない状
況も見受けられます。

こうした環境の変化により、生活習慣の定着や自制心、規範意識が不十分で、他者との関わりや人
間関係を築く力が低下しています。また、運動能力の低下や学びへの意欲の欠如、思いやりの不足
も課題となっています。

2. ビジョン（長崎県が目指す姿）

こどもが“ここにいたい”と思える場所を、みんなで作りたい。
そして、子どもが主役で笑顔があふれる長崎県を実現したい。

「居場所がない」から「行きたい場所がある」未来へ

こどもたちが日常のあらゆる時間を安心して過ごし、自由に自分らしい時間を楽しめる場所をつくることは、今の社会が抱える大きな課題です。

そこに加えて、体験や遊びを通じて心や体が成長できる場所を提供することが求められています。遊びやゲーム、運動、体験活動を通じてこどもたちが挑戦し、自信を育む場は、ただ「居られる」だけの場所ではありません。こどもが自分の力を試し、失敗を経験し、次に挑む機会を得る中で、大きく成長する「学びの場」としての役割も果たします。

長崎県が目指すのは、こどもたちが心から「ここに居たい」と思える場所。

それは、好きなことをしながらのびのびと過ごせる空間であり、また新しいことに挑戦し、成長を実感できる環境でもあります。遊びや体験が生み出す豊かな時間は、こどもたちの未来に大きな力を与えるでしょう。

そして、子どもが主役で笑顔があふれる長崎県を実現したい。

こどもたちが安心して過ごし、成長できる「居場所」は、地域全体で支え合い、多様な体験と人とのつながりを育む場です。

そこでは、日常的な遊びや学びの中で仲間と交流し、思いやりや協力する力を養うとともに、好きなことに夢中になれる体験を通じて、自分の可能性を見つけ、未来に向けた意欲を高めます。また、地域の大人たちも積極的に関わり、こどもたちに温かなまなざしを向け、共に成長するパートナーとなります。

長崎県では、こうした場所が県内各地に生まれ、地域とともに育まれることで、こども一人ひとりが心身ともに健やかに育ち、社会を生き抜く力を身に付けていくことを目指していきます。

こどもがここに居たいと思える場所

いつでも、どこに住んでも
安全で安心できる

なんだかとても心地よい。心がほっとする場所。
遊びも、学びも、くつろぎも。自由に選べて、自由に過ごせる。
誰もが受け入れられ、安心して笑顔になれる。
長崎県は、そんなこども場所をめざします。

やりたいことにチャレンジできて
ワクワクできる

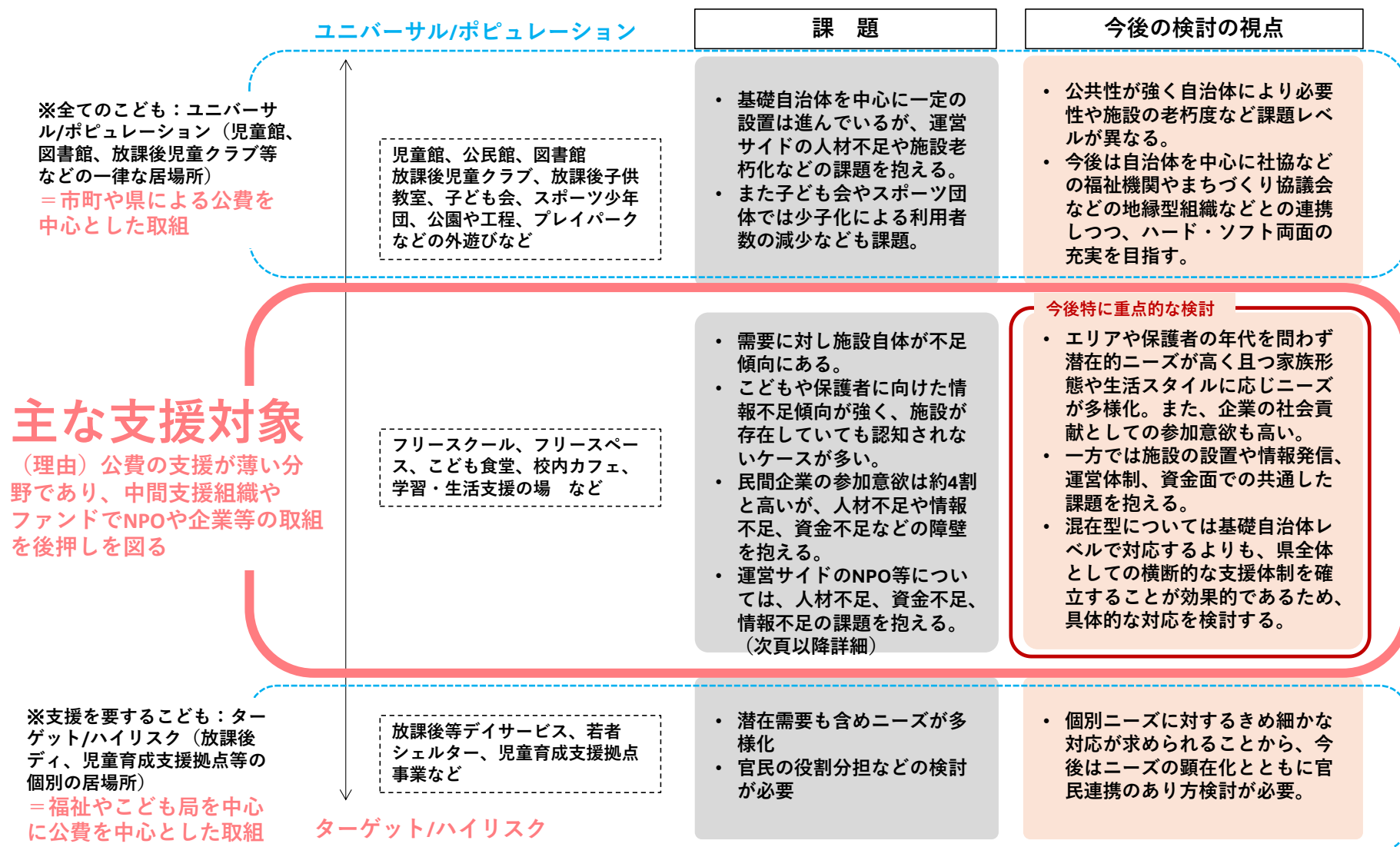
こどもが主役で笑顔があふれる長崎県

3. 長崎県の取組の方向性

① 支援の主な対象

こども場所は多様であり、現在でも国、県、市、民間の皆さんによって様々な場所が運営されています。

今回、長崎県としては、放課後児童クラブなどのいわゆる「ユニバーサル/ポピュレーション型」と若者シェルターなどの「ターゲット/ハイリスク型」の**中間に位置する場所や体験**を支援の対象と位置付けます。



②支援の基本的な方向性

こどもがここにいたいと思えるこども場所の充実に向け、「こどもが真ん中のネットワークをつくりこども場所の輪を広げる」、「こどもの声をきき、こどもが居たいと思える持続可能かつ安全・安心で多様なこども場所を支える」の二つの取り組みを進めます。

基本方針 1

こどもが真ん中のネットワークをつくり
こども場所の輪を広げる。

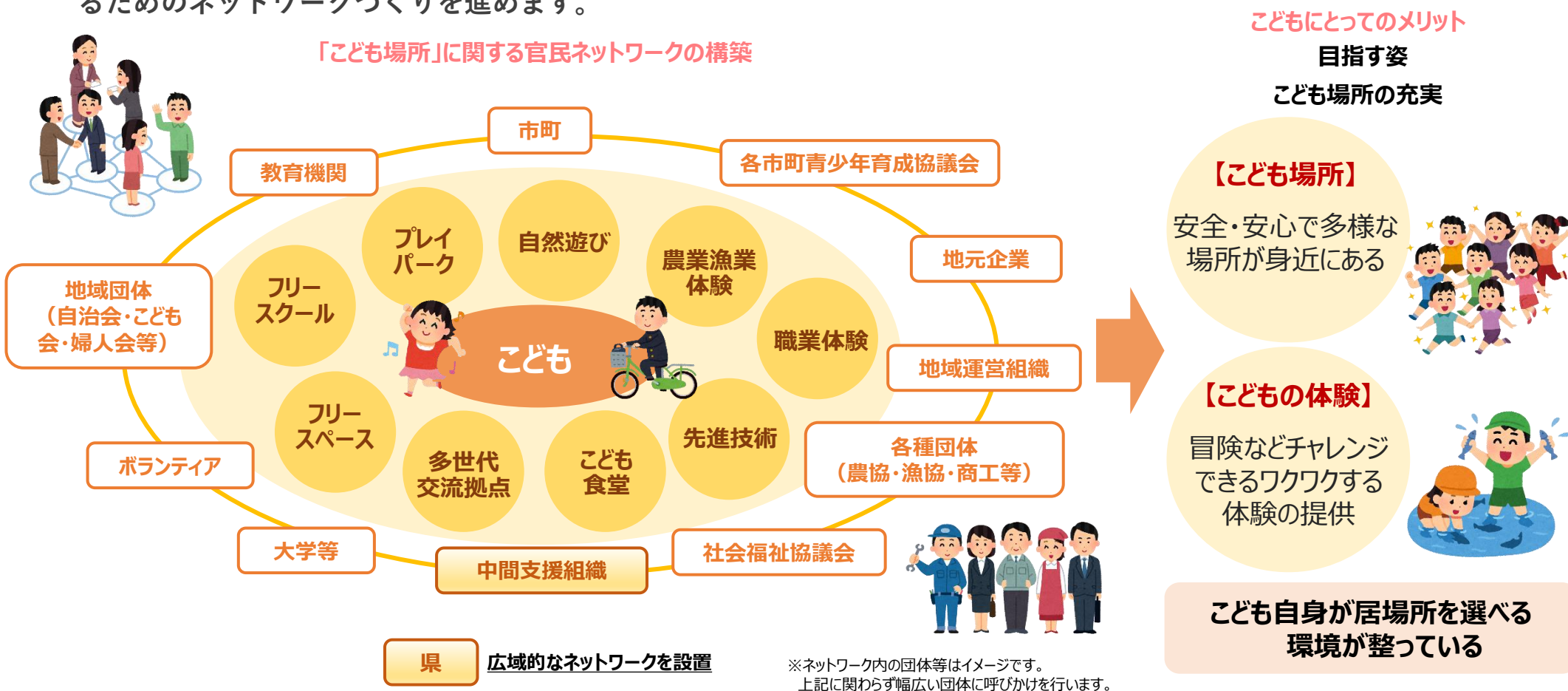
基本方針 2

こどもの声をきき、こどもが居たいと思える持続
可能かつ安全・安心で多様なこども場所を支える。

基本方針 1

こどもが真ん中のネットワークをつくり
こども場所の輪を広げる。

こども場所の充実にかかる取組は、専門家や福祉関係者だけのものではなく、誰でも気軽に参加できるものです。個人、企業、団体、学生など、様々な立場の人々が関心を持ち、自らが出来る範囲で無理なく関わり続けることが、持続可能な取り組みの第一歩だと考えています。長崎県では、そんなみんなが集い、情報を共有し、社会全体で意識の醸成を図りながらこども場所の充実を一緒に進めるためのネットワークづくりを進めます。



会員要件 (例)

- ・ こども場所の充実に取り組む個人・団体
- ・ これから取り組みたい個人・団体

(対象となる活動例) 金銭や物品の寄付／こども食堂などの場所の充実／食材や物資の提供など多様なサービス提供／体験活動機会の提供／ボランティア活動／親子への支援／場所の提供・フードドライブBOXの設置／広報・PR活動／その他の社会貢献活動・公益活動

ネットワークの機能

知る

会員相互の情報共有や
各種支援制度の情報発信
・セミナー開催などを
行います。

交流会の開催

支援制度等の情報発信

セミナー等の開催

つながる

「支援して欲しい」と「支援し
たい」をつないだり、
専門家のアドバイスを受けたり。
“つながる”支援を行います。

相談受付・助言

マッチング

アドバイザー派遣

広がる

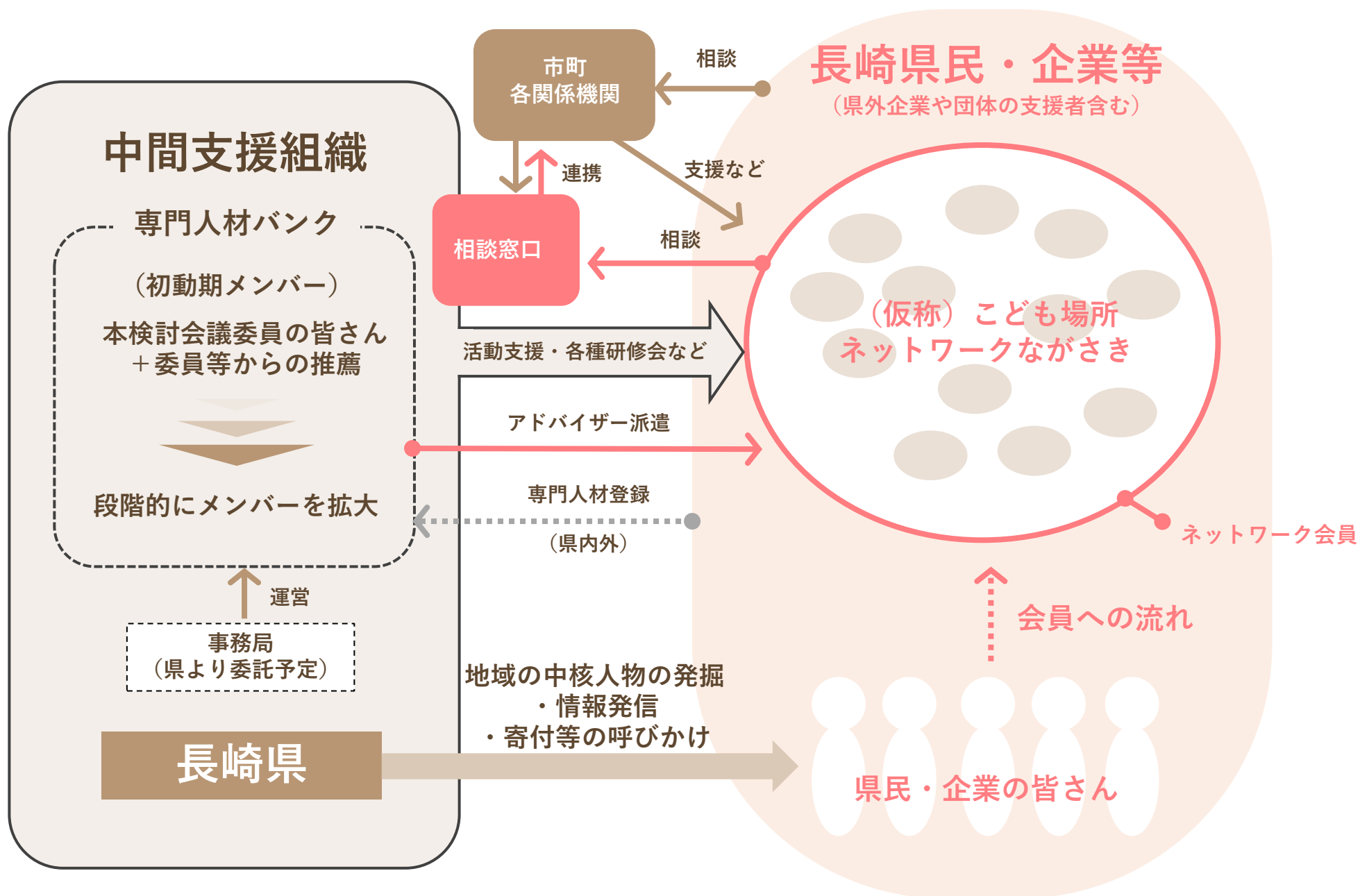
多様なイベントや情報発信を
を通じて、こども場所の充実
に取り組む仲間を増やします。

活動の周知・会員募集

交流イベントの開催

寄付などの呼びかけ

ネットワークを動かす体制・仕組み



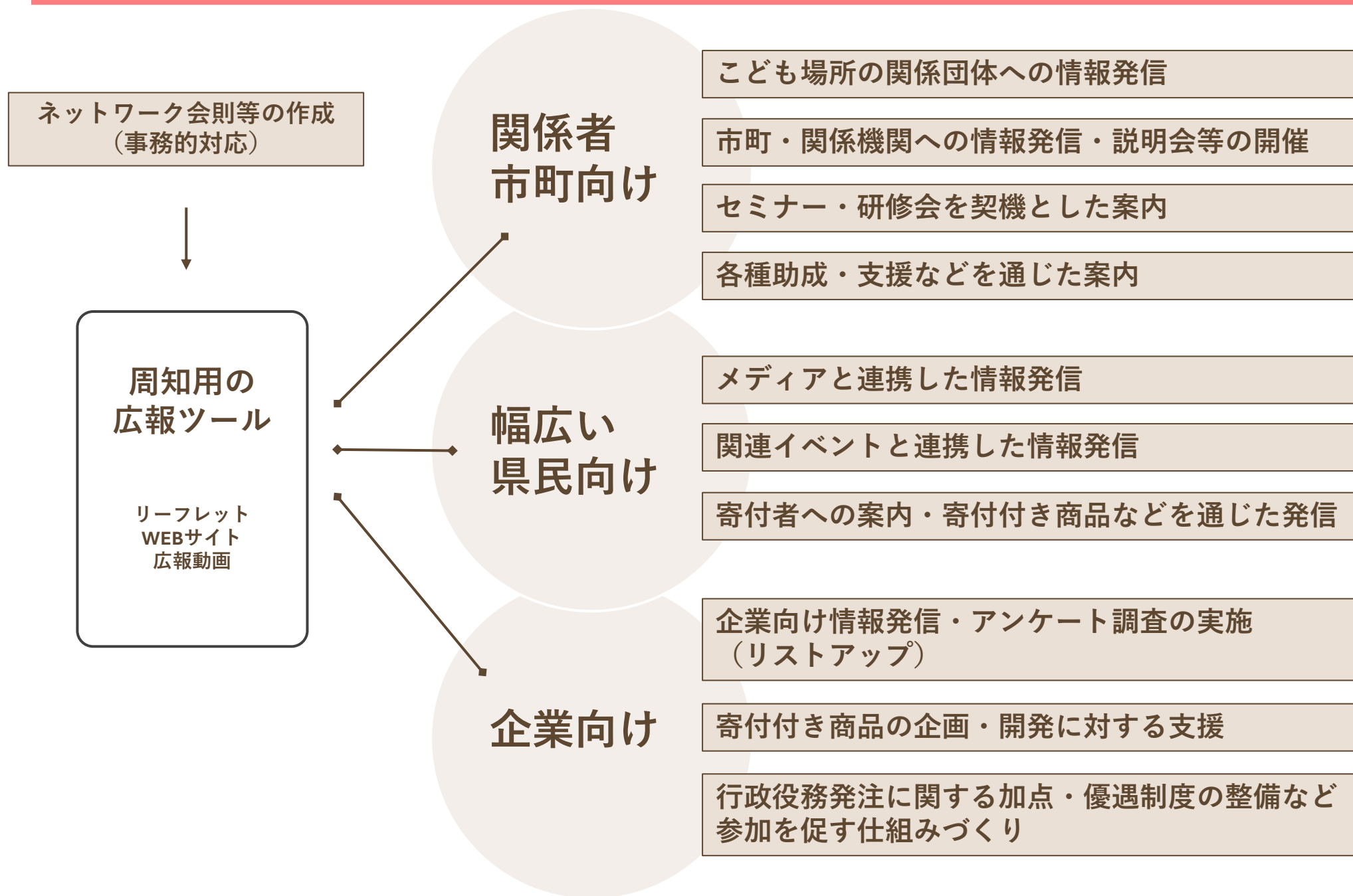
ネットワーク会員加入のメリット

ネットワークの機能	会員加入のメリット
知る 交流会の開催 支援制度等の情報発信 セミナー等の開催	・ 交流会やセミナーへの参加でき、専門知識やトレンド情報などが取得できる ・ 自治体や関連機関の支援制度についての情報を受け取れる ・ 他の会員の事例や成果を知ることができる
つながる 相談受付・助言 マッチング アドバイザー派遣	・ 相談窓口を利用できる ・ 専門家から個別のアドバイスや必要に応じたアドバイザー派遣を受けられる ・ 事業や活動において必要なパートナーや協力者を探す機会が得られる
広がる 活動の周知・会員募集 交流イベントの開催 寄付などの呼びかけ	・ 自身の活動やプロジェクトを広く知ってもらい、協力者や支援を募ることができる ・ 活動やプロジェクトに参加できる機会や具体的な方法を知ることができる ・ 企業と地域のつながる機会が増える ・ 企業の地域貢献活動の周知が図られる

中間支援組織の機能

項目	具体的な内容
関係機関と連携した 相談窓口の運営	・ ネットワーク会員の相談受付 ・ 関係機関等へのつなぎ ・ 専門人材バンクへの相談
専門人材と連携した 継続的な活動支援 (アドバイザー派遣)	・ 専門人材体制づくり（第一段階は検討会メンバー＋推薦者で構成） ・ 助言・アドバイザー派遣の仕組みづくりと運用（派遣要件＋報酬など）
活動の質の向上のための 各種研修会等の開催	・ 各種研修会の企画・実施 （安全、DBS、食品安全、活動、資金集め、デジタル活用など） リアル開催 (年2回程度) → デジタルアーカイブ整備 (いつでも・どこでも閲覧可能)
ネットワーク会員への 情報提供・交流促進	・ 交流会の開催 ・ ネットワーク会員への情報発信

ネットワーク会員の集め方・広げ方



基本方針2

こどもの声をきき、こどもが居たいと思える持続可能かつ
安全・安心で多様なこども場所を支える。

情報・交流

情報発信・共有と相談体制の充実

- ・こどもの声を把握する仕組みづくり（学校アンケート・デジタル掲示板・ヒアリングなど）
- ・情報発信・共有ポータルサイト立ち上げ
- ・各種相談窓口の設置
- ・関係者が集う交流機会の設置

ひと

人材確保と成長の仕組みづくり

- ・各種研修会やセミナーなど人材育成プログラムの実施
- ・人材バンク・アドバイザー派遣
- ・企業人材の活躍機会の創出

場所・もの・資金

企業や個人に向けた意識醸成と仕組みづくり

- ・ふるさと納税などを活かした県民応援資金調達の仕組みづくり
- ・自主財源確保に関する支援（補助金等の情報提供・申請支援など）
- ・食料などの物資確保の仕組みづくり
- ・こども場所に関する情報集約・物件情報などの集約・マッチング支援

